



## 「良書ご案内」

書籍名	メタバースとは何か	著者名	岡嶋 裕史
出版社名	光文社新書	発行年月	2022年1月

自宅で愛用のロードバイク(自転車)に乗り、ネット上の仮想空間であるサイクリングロードを快走する。朝のセントラルパーク(ニューヨーク)の緑の中を、小鳥のさえずりを聞きながら世界各国の愛好家が集まってくる。現在130以上のコースが用意されており、リアルな体験をすることができる。

インターネット上で提供されるサービスの進化が止まらない。ウェブ、メール、検索エンジン(グーグル)、EC(アマゾン)、SNS(フェイスブック)、動画配信へと移り、次のキラーサービスとしてメタバースが注目されている。メタバースとは、メタ(超えた)、ユニバース(世界・宇宙)の合成語であり、現実とは違う「もう一つの世界」、サーバー空間(インターネット)における「仮想世界」のことだ。

リアル(現実)の社会は、少数の強い人には極めて居心地よいが、そうでない多くの人には息苦しいものとなっている。メタバースは画期的だ。高度な技術でリアルと同等の世界が構築され、仕事も学校も恋愛さえもそこで完結するサービスが提供される。リアルの世界が生き難く、仮想現実(メタバース)の中にしか希望を見つけれられず、そこで生活を楽しみ、人生の大半を過ごす多くの人が近未来には出てくるのだろう。

生きていくには希望が必要だ。私たちは次々と心を支えるファンタジーを提供する媒体として、小説、絵画、音楽、演劇、映画、宗教を生み出してきた。鎌倉時代には多くの仏教宗派が誕生したが、それだけその時代が生き難かった証なのだろう。生きにくい社会はこれからも続く。今まさに、メタバースという新しいファンタジーが生まれようとしている。

時代はいつの間にか、気付かないうちに大きな潮流となって横たわっているものがある。一時的なもの、過度期的なことと思っていたことが、本流となり定着していることがある。新型コロナウイルス禍で、緊急避難対策と思っていたテレワークが定着しつつある。その結果、働き方が変わり、原則在宅勤務の大手企業も現れた。密を避けるために通販が伸び、対面販売が苦戦している。人の移動が減り、鉄道も航空需要も大きく減少させている。居心地の良いメタバースの暮らしは、果たして本流となり市民権を得るのだろうか？

(参考) 週刊エコノミスト10/25号 毎日新聞社

岩城

編集後記

大好きな絵本をと言われたら、躊躇なくこの3冊を挙げたい！①「ちびくろ・さんぼ」②「ちいさいおうち」そして、③「ぐりとぐら」。自分の幼少期だけでなく、子育ての際にも大変助けてもらった絵本でもある。特に③の「ぐりとぐら」は「ぼくらの なまえは ぐりとぐら/このよで いちばん すきなのは/おりょうりすること たべること」とそらでフレーズが出てくるほど何度も何度も読んだ覚えがある。情景が頭に浮かび、まさに2匹の野ネズミと同じ空間に、私もいるような感覚だった。この挿絵を書いた山脇百合子さんが亡くなったと天声人語で知り、そして文章を担当したのが実姉であったと聞き、だから絶妙だったのかと得心がいく。作中に出てくるカステラ(③)やホットケーキ(①)は、味覚と想像力と、そして五感に訴えてくる。この感覚はいつの時代も変わらない、少し寒くなって参りました、みなさま、体調を崩さないよう、暖かい飲み物と一緒に読書はいかが。

発行所：株式会社ライフデザイン研究所

所在地：〒541-0048 大阪市中央区瓦町3-4-87サピル2F

Tel 06-4708-6844 Fax 06-4708-7067 編集人 伊藤